

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 19 年 7 月 5 日 (2007.7.5)

【公開番号】特開 2001-337244 (P2001-337244A)  
 【公開日】平成 13 年 12 月 7 日 (2001.12.7)  
 【出願番号】特願 2000-156220 (P2000-156220)  
 【国際特許分類】

**G 0 2 B 6/028 (2006.01)**

**G 0 2 B 6/00 (2006.01)**

**G 0 2 B 6/08 (2006.01)**

【F I】

G 0 2 B 6/18

G 0 2 B 6/00 3 6 6

G 0 2 B 6/00 3 9 1

G 0 2 B 6/08

【手続補正書】  
 【提出日】平成 19 年 5 月 23 日 (2007.5.23)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】特許請求の範囲  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】円柱形状を有し、中心から外周部に向かって屈折率が連続的に減少してなるプラスチック光伝送体であって、80 で 72 時間無張力下で熱処理した場合の熱収縮率が 0.5% 以下であることを特徴とする光伝送体アレイ用プラスチック光伝送体。

【請求項 2】硬化させた後に得られる硬化物の屈折率が  $n_1$ 、 $n_2$ 、 $\dots$ 、 $n_N$  ( $N \geq 3$ ) である  $N$  個の未硬化物を同心円状に積層して、中心部から外周部に向かって屈折率が順次減少したファイバ状の未硬化物積層体を形成し、この積層体の各層間の屈折率分布が連続的に変化するように隣接層間の成分の相互拡散処理を行いながら、または相互拡散処理を行った後、積層体を硬化処理したプラスチック光伝送体原系を加熱延伸した後、緩和処理を行うことを特徴とする請求項 1 に記載のプラスチック光伝送体の製造方法。

【請求項 3】プラスチック光伝送体の  $T_g$  以上の熱雰囲気下で緩和処理を行う請求項 2 に記載の製造方法。

【請求項 4】請求項 1 に記載のプラスチック光伝送体の複数本が 2 枚の基板間に平行配列されてなるプラスチック光伝送体アレイ。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0010  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】

【0010】

【課題を解決するための手段】

本発明の要旨は、円柱形状を有し、中心から外周部に向かって屈折率が連続的に減少してなるプラスチック光伝送体であって、80 で 72 時間無張力下で熱処理した場合の熱収縮率が 0.5% 以下であることを特徴とする光伝送体アレイ用プラスチック光伝送体にある。